

(参考2) 年金額の調整の仕組みー「マクロ経済スライド」を少し詳しく

従来の年金額の計算式

○基礎年金

$$804,200円 \times \frac{\text{保険料納付月数}}{480\text{月}(40\text{年})} \times \text{物価スライド率}$$

○厚生年金(報酬比例部分)

$$\text{平均標準報酬額} \times 5.481/1000 \times \text{被保険者期間の月数} \times \text{物価スライド率}$$

(ボーナス込み月収)

〔平均標準報酬額 : 過去の賃金(ボーナス込み)を現在価値に置き換える〕

今回の改正法における年金額の計算式(マクロ経済スライド適用時)

○基礎年金

$$780,900円(\text{平成16年度額}) \times \text{改定率} \times \frac{\text{保険料納付月数}}{480\text{月}(40\text{年})}$$

○厚生年金(報酬比例部分)

$$\text{平均標準報酬額} \times 5.481/1000 \times \text{被保険者期間の月数}$$

〔平均標準報酬額 : 過去の賃金(ボーナス込み)に再評価率を乗じて現在価値に置き換える〕

改定率・再評価率

(年金を初めてもらうとき)

$$\text{前年度改定率(再評価率)} \times \text{賃金上昇率(3年平均)} \times \text{調整率}^{\ast}$$

(年金をもらっている人)

$$\text{前年度改定率(再評価率)} \times \text{物価変動率} \times \text{調整率}^{\ast}$$

$$\begin{aligned} \ast \text{調整率} &= \text{公的年金被保険者数の減少率(3年平均)} \\ &\quad \times \text{平均余命の延びを勘案した一定率(0.997)} \end{aligned}$$